

日時:2009年8月14日－2009年8月15日

山名:唐沢岳幕岩

メンバー:久池井(豊)、久池井(七)

ルート名:大凹角

形態:アルパイン

報告:久池井(豊)

<13日 15:00 自宅発=20:00 七倉駐車場着>

夕方、自宅を出て豊科IC付近で夕飯を済まして七倉の駐車場へ。

<14日 07:30 起床= 08:30 駐車場発=タクシーにて移動=09:00 高瀬ダム発=12:00 大町の宿>
朝早く、雨音で起こされる。一気にモチベーションが下がる。今日は大町の宿までなので、雨があがってから出発することに。高瀬ダムからは、カラ沢を遡行していくので、沢登りに来ているのかと錯覚を起こす。天気は回復したものの、踏み跡もよくわからず、渡渉も数え切れないので、金時の滝のすぐ左のガリーはガレガレで、ワシの滝の上はすべりやすく、アプローチだけでお腹がいっぱいになる。岩小舎「大町の宿」には、すでに4-5人用テントが1つ。彼らは、その少し上の平らな場所で、テントを設営したところ、タッチの差で2人組のパーティーが来た。すでに、テントを張る場所はないので、他のエリアに移動したようだ。テントに荷物をデポした後、明日の取付き確認のため、右稜のコルへ。しかし、ここから大凹角の取付までがよくわからない。おそらく、目の前のこのブッシュ帯を突っ込むのだろうってことで、今日はここまで。大町の宿へ戻り、のんびりしているところへ、16時ごろに先行パーティーが戻って来た。いろいろと情報を教えてもらう。また、このまま下山するということで、幸運なことにテント場を明け渡してもらう。ここ大町の宿は、雨・風がしのげるだけでなく、水場もすぐ近くなので超がつくほど快適であった。

<15日 04:30 起床= 05:20 大町の宿発=05:40 右稜コル・準備=6:00 大凹角取付・先行パーティー順番待ち 6:45 登攀スタート=11:30 終了点=11:50 右稜の頭=13:30 右稜コル=14:00 大町の宿=14:40 下山開始=18:10 高瀬ダム=19:00 七倉駐車場>

さっさと、朝飯を食べて右稜のコルへ。すでに、昨日会った2人組パーティーがいた。黙々と身支度して、ブッシュ帯の左側をトラバースする。40mほどザイルを伸ばしたところで、明るいところに飛び出て、1Pの取付きに着く。先行パーティーを見送って、06:45スタート。天気は晴れだが、岩が北面のため日当たりは良くない。

<1P: III/A1> 豊

びしょびしょのスラブ。凹角の中は、アブミでやり過ごす。

<2P : III> 七生

乾いていれば快適なスラブということだが、ぬれてて不快。

<3P : IV/A1> 豊

洞穴左壁を上がり、右にトラバースしたのち、直上する。トポでは40mだが、25mほどのばしたところで、先行パーティーがピッチを切っていたのでここで切る。それにしても、岩が苔むしていて、水をたっぷり吸ったスポンジのようで、不用意に手足をおくとそこから水が染み出してくる。

<4P : IV> 七生

ここから、支点がなくルートファインディングが難しい。そのうえ、草付が多くいやらしい。先行パーティーが切ったピッチを超えて、びしょ濡れの凹角にカムをひとつかませて、リッジの始まりでピッチを切る。おもしろいピッチ。

<5P : IV> 豊

右のジェードルかまっすぐリッジに行くか、悩んだ末、ジェードルに。しかしながら、ぬれていて滑る。ここは、リッジの方が快適だったかも。大テラスでは、ピッチを切らず、緩傾斜の灌木帯へ。

<6P : II～III> 七生

草付帯。できるだけ泥で汚れないように登る。想像より、太い樹が多く支点が安心できた。全く問題なし。

<7P : II～III> 豊

上部岩壁部直前でビレイ。

<8P : IV/A1> 七生

先行パーティーは、左のチムニーの中を進んだが、右壁のルートを選択。トポではこちらのルートが紹介されていた。このピッチのこの出だしだけが、フリーらしい感じ。

<9P : IV/A1> 豊

素直なA1。途中から、どこでも登れる感じがしてちょっと悩む。もたもたしていると、下から、右！と声がかかり、意識して右へ。突然、景色がまぶしくなり、ひょっこり右稜の頭に出る。11:30 無事に終了

さて、登攀は終わったものの、懸垂ポイントが良くわからん。うっすら踏み跡があるのだが、

途中で切れるので自信が持てない。先行パーティーも引き返して、しばし談義する。そのうちの一人は、以前にも来た事があるのだが、木が生い茂って、風景が変わってしまったとのこと。懸垂の1ピッチ目は、空中懸垂なので、迂闊に歩くのも憚れる。右往左往しているうちに、先行パーティーが懸垂ポイントを見つけたらしく、大声で呼んでくれた。終了点から、右下に向かって10数m（？）ほど藪ごぎすると、しっかりとした懸垂ポイントが確かにあった。落石事故防止のため、先行パーティーと十分な時間を空けて下山開始。13:30に無事に右稜のコルに到着して、先行パーティーにお礼をのべて、テント場へ。当初は、翌日に下山の予定だったが、暗くなる前に高瀬ダムに着けるだろうと撤収を開始する。沢をアプローチシューズで下るのは、なかなか危なく、渡渉に飽きたころ高瀬ダム着。あとは、暗く湿ったトンネルの中を歩いて、19:00 七倉駐車場に着く。

＜感想＞

今回は、二人とも初めてのエリアのため、登攀そのものよりもダムからのアプローチと懸垂下降の支点探しが核心であった。おそらく、先行パーティーがいなかつたら、同ルート下降か、もしくは時間が大幅にかかったに違いない。もっと山慣れ・場慣れする必要があると実感した。

＜おまけ＞

ダムからのアプローチは、すさんだ雰囲気のところもままありましたが、時折、美しい渕ができたり、花がひっそり咲いていたり、心が癒されました。人里はなれた所まで岩登りに来たなあ、という感じがして、終わってみるといい経験になったと思います。（七生）